

な た でら ちゃ し つ に よ ぜ あ ん
那谷寺茶室 如是庵

種 別	市指定文化財 建造物
指定年月日	平成11年11月3日
所 在 地	那谷町（那谷寺）

如是庵は、那谷寺の書院・庫裏くらに付属して建てられた茶室である。書院・庫裏は寛永12年（1635）に、那谷寺の他の建物の造営に先立って建てられ、如是庵も同時期のものと考えられている。

小さな茶室だが躡口にじり⁽¹⁾が無く、広い貴人口のみである。茶室に入って右側には床があり、点前座⁽²⁾と客座⁽³⁾の間は杉の半板が隔てている。客座側には直径3尺の円窓と、幅4尺、高さ3尺8寸の連子窓が開かれ、庫裏庭園を望むことができるようになっている。

三畳敷きの簡素な草庵風を基にしながらも、躡口を設けず、大きな窓を取って庭を望むようにするなど、その特徴的な造りには、この茶室の主・利常の好みが大きく反映されていると思われる。

- (1) 躡口：茶室に付けられる客用の小さな出入り口。
- (2) 点前座：茶席で亭主が茶を点てるために座る場所
- (3) 客座：茶席で客が座る場所

